

保健師等のコンピテンシーを高める

学習成果創出型プログラム

Continuing Professional Development



岡山大学大学院保健学研究科
コミュニティヘルス看護学領域
地域公衆衛生看護学特論

保健師等のコンピテンシーを高める

学習成果創出型プログラム テキスト

「私の学び、明日への貢献」に向けた Continuing Professional Development のために

もくじ

1. 受講されるあなたへ	1
2. プログラムの理念と方法	3
3. 参加のルール	6
4. プログラムの流れ	7
5. ポートフォリオ活用の手引き	8
6. リフレクティブプラクティス（省察的実践）の手引き	16
7. 学習の手引き（今特に強化が必要な保健師の専門能力に焦点をあてて）	21
ワークシート名一覧	33

受講されるあなたへ

1) はじめに

このプログラムは、あなたの **Continuing Professional Development**（以下 CPD）、つまり専門職としての継続的な発展を支援することを目的としています。

このプログラムは、専門職であるあなたが、人々によりよい貢献をするために、日頃の活動や業務を振り返り、あなた自身の強みや弱みに気づき、あなたが目指す専門職像に近づけるように、何を学べばいいのか、どこを改善すればいいのかについて、あなた自身が選び決定し、実行するためのものです。

保健分野で活動する専門職は、時代ごとに特徴が変わる健康課題や、人々の多様なニーズ、地域ごとに異なる民族や風土、文化、慣習に柔軟に応じるために、いつも自分を変えられる人材でいられるよう磨きをかけおくことが求められます。

こんなときどうしたらいいんだろう…。こんな新しい事態にどうするかなんて、誰も知らないよ、どうしよう…。あなたもふと不安になったり、悩むことがあると思います。

でも、大丈夫。あなたの秘めたるプロ魂は、きっとあなた自身を奮い立たす原動力になってくれるはず。さあ、これから、自分の内側に眠るあついあつい思いに出会い、そしてそれと呼び覚ます旅に出かけましょう！

ただし、ひとつ申しあげたいこと。それは、専門職としての発展には「**Continuing 継続**」が大事だということです。「熟達化の 10 年ルール」というのがあるそうです。それは、「その領域での秀でた熟達者になるためには、最低でも 10 年の経験が必要である」、そしてその 10 年間に、いかに「よく考えた実践 **Deliberate practice**」を積んだかが重要だということです (Ericsson, 1993, 1996)。

このプログラムへの参加が、これからも続くあなたの専門職としての営みに、意味のあるインパクトをもたらすことを心より願っています。

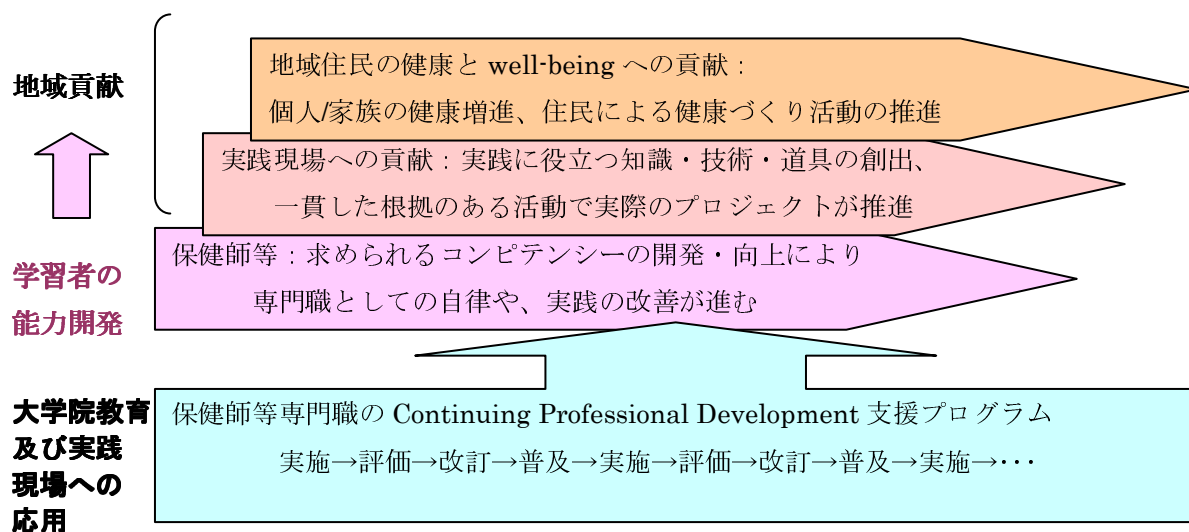


図 このプログラムがめざす全体像

2) このプログラムがめざすこと

このプログラムがめざすことは以下のとおり、あなたがあなた自身の力で、自分とまわりをよりよく変えることです。最後のセッションであなたは《すこし成長した自分を発見》することでしょう。

《プロフェッショナルになる》

〈自分で考える〉

……誰かではなくあなたが考えたことに、あなたは責任感を感じます。しかもそれが誰かのためになることであればなおさらです。根拠にもとづいて、原則に忠実で、系統的かつ一貫した思考は、自分を心地よくし、他者を説得する力になります。

〈学び方を学ぶ〉

……専門職の能力の中心をなすのは、「学び方を学ぶ」力量であるといわれています。人々の健康と well-being を推進することは、効率性や合理性、画一性の追求とは相反する側面を持っています。複雑で多様、かつ変化する現実の状況にどのように応じていけばいいのか。私たち専門職は、そのために「行為を省察」して常に新しい知識を生み出す行動様式を身につける必要があります。

《プロフェッショナルの仕事をみせる》

〈「何のために何をする」を表明する〉

……日頃、忙しさの中で、仕事をこなすことに慣れ、自分は何のために何をしているのかを忘れていませんか？ 専門職にとって社会的貢献は使命です。この科目では、誰（何）に、どのような貢献をするために、専門職である自分が何をするのかを明らかにします。また、自分だけでなく、それを他者へも提案します。

〈成果をみせる〉

……専門職の条件のひとつには社会的承認を得ることがあげられます。誰（何）かの役にたったという貢献の中身を効果的にみせる力は、住民や関係者の方々に承認を得るためにも、説明責任を果たすためにも必要です。またこのプロセスは評価を並行して行うので、あなたの次のアクションプランにもつながります。

それでは、ここから、始めましょう！ あなたが楽しんで学んでいただけますように！

2. プログラムの理念と方法論

このプログラムは、アクションリサーチの理念に則り、目標志向型学習の方法論を用いています。その主なものについて、説明します。

1) アクションリサーチ Action Research

～変革に至るプロセス重視のアプローチ～

アクションリサーチとは、実際に社会で生じている問題や状況を体系的に理解し、課題の解決や改善、仕組みの変革などの「**よりよい変化を促進する**」ことを意図して、**社会にはたらきかけるアプローチ**（取り組み、探求活動）です。

そのプロセスは、「計画」「行動と観察」「リフレクション」「評価と再計画」がらせん的に展開します。アクションリサーチにおける3つの重要な要素は、

- ・主体的参加 …（「自分で考える」に通じます！）
- ・民主的な展開 …（「学び方を学ぶ」に通じます！）
- ・社会の変化と社会科学への同時貢献
 …（「何のために何をする」「成果をみせる」に通じます！）

といわれています。参加型アクションリサーチにおいては、公平性、自由と解放、生活や権限の向上が強調されます。保健医療分野では、解釈学や批判理論を哲学的基盤として発展したタイプが多く用いられています。アクションリサーチによって、参加者には、学習成果とエンパワメント、エンハンスメントがもたらされるといわれています。

2) プロジェクト学習 Project-Based Learning : PBL

～学びの追究による自立的学習を呼び覚ます方法論～

プロジェクト学習は、自立学習の育成を目標とする学びのスタイルです。ここで「学ぶ」とは、意志をもち将来の目的に向かって行動していくことです。意志は行うことより重要で、より高いレベルの要求に答えたり、将来の可能性を創造したりすることができる資質を育てます。よって、プロジェクト学習の目標は、有能な社会人を育成することです。

プロジェクト学習は、「テーマ（課題）の決定」「ゴールの設定」「計画」「成果発表」「再構築」というステップを踏みます。学習者は、自分の興味や関心に従って自由にテーマを考え、作成した企画書に従ってその追究を自立的に行います。

プロジェクト学習によって獲得するものは、問題解決能力、情報を獲得しそれを活用する能力、コミュニケーション力、複雑な相互関係を理解する能力などです。さらに重要なことは、生涯にわたり学び続けるために必要な資質や技能を獲得することです。

3) 協同学習 Cooperative Learning

～相互協力を重視し最大の学習効果をめざす方法論～

協同学習とは、共有する目標を達成するためにスモール・グループを活用し、自分のためになる学習と互いの学習を最大に高めようとする学習方法です。

学習は、「目標をはっきりと具体化しておく」「学習課題と目標の構造を説明する」「グループの相互協力学習を進める」「学習者の達成度を評価し、グループの協同学習の機能を査定する」というステップで進めます。

協同学習を構成する要素は、①相互協力関係 ～皆はひとりのため、そして、ひとり皆のため～ ②対面的・積極的相互作用 ～仲間同士の学習成果に関するフィードバック～ ③個人の責任 ～働かざる者食うべからず～ ④グループの改善手続き ～取り組みを顧みる～ です。これらの要素を確実に組み込んでいけば、旧来のグループ学習で生じていた課題を克服し、効果的な協同学習を作り出すことができます。

学習者は、協同学習によって推論と批判的思考、対人関係の促進、自尊心を高めることができます。

4) コミュニティ・ミーティング Community Meeting: CM

～提案書作成にいたるプロセス重視の方法論～

CM は、現状分析を基本として、行政と住民、住民同士がパートナーシップを築きながら住民の「生活実態」、思いを施策化していくプロセスです。

CM の最終目標は、「住民の健康への関心を高め、住民自身がコミュニティのヘルスケア改善に取り組み、それによりコミュニティ全体の健康増進がなされること」です。

CM は、「前準備」「導入」「課題の整理」「課題解決のための具体策の検討―誰が何をするかを検討する―」「提案書の作成」というステップを踏みます。

CM を進めるにあたり参加者間で共有しておくことがあります。それは、①個々人の生活実感を大切にすること ②パートナーシップ ③未来志向である ④対立ではなく対話である です。

CM をとおして、住民のエンパワメントを高めます。

参考文献

アクションリサーチ関連

- (1)岡本玲子. IV主な質的研究と研究手法(6)アクションリサーチ. グレグ美鈴他編. よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートをめざして. pp141-158 東京：医歯薬出版株式会社. 2007
- (2)Alison Morton-Cooper, et al.: Action Research in Health Care. pp18, Blackwell Science, Oxford, 2000 (邦訳：岡本玲子・ほか, ヘルスケアに活かすアクションリサーチ, 医学書院, 2005.)
- (3)Julienne Meyer: The Research Process in Nursing. 5th edition, pp274-288, Blackwell Publishing, Oxford, 2006.
- (4)Hart E and Bond M: Action Research for Health and Social Care. A guide to practice. pp36-77, Open University Press, Buckingham, 1995 (邦訳：大滝純司, 質的研究実践ガイド 保健・医療サービス向上のために, pp62～66, 医学書院, 2001.)
- (5)Street A. (ed.): Establishing a participatory action research group. 1st edn, pp59-78, In Nursing Replay: Researching Nursing Culture Together, Volume 1, Churchill Livingstone, Melbourne, 1995.
- (6)Stringer E.: Action Research. a Handbook for Practitioners. Sage, Thousand Oaks, California. 1996
- (7)Tina Koch et al.: Enhancing lives through the developing of community-based participatory action research programme. Journal of Clinical Nursing, 11, 109～117, 2002
- (8)Schon D: Educating the Reflective Practitioner Jossey-Bass. London, 1987.
- (9)Kolb D A., Rubin I M., McIntyre J M., Organizational psychology: A book of readings. Englewood Cliffs, HJ:Prentice-Hall, 1971
- (10)Gibbs G., Learning by doing: A guide to teaching and learning methods. Further Education Unit, Oxford Polytechnic (now Oxford Brooks University), Oxford, 1988
- (11)Johns C: Guided Reflection. Advancing Practice Blackwell Science, 2002
- (12)Burns S., Bulman C., Reflective Practice in Nursing: The Growth of the Professional Practitioner 2nd ed., Blackwell, Oxford, 2000 (邦訳：田村由美、中田康夫、津田紀子 監訳、看護における反省的实践－専門的プラクティショナーの成長－, ゆみる出版, 2005)

プロジェクト学習ほか関連

- (13) ロナルド・J・ニューエル著 上杉賢士 市川洋子監訳： 学びの情熱を呼び覚ますプロジェクト・ベース学習, 学事出版. 2004
- (14) 鈴木敏恵著： ポートフォリオでプロジェクト学習－地域実践ガイド, 教育同人社. 2003
- (15) 村川雅弘著： 生きる力を育むポートフォリオ, ぎょうせい. 2001
- (16) ジョンソン,D.W 杉江修治訳： 学習の輪, 二瓶社
- (17) 高旗正人： 自主協同の学習理論, 明治図書. 1981
- (18) D.W.ジョンソン, R.T.ジョンソン, K.A.スミス著 関田一彦監訳： 学生参加の大学授業－協同学習への実践ガイド. 玉川大学出版. 2001
- (19) 日本看護協会： コミュニティ・ミーティング ガイド, 平成 11 年度 先駆的保健活動交流推進事業. 1998

3. 参加のルール

あなたはこのプログラムに参加するにあたり、次の姿勢で臨みましょう。

<プロセス>重視の授業です！

このプログラムは、専門職であるあなたが、人々によりよい貢献をするために、何を学べばいいのか、どこを改善すればいいのかについて、あなた自身が選び決定し、実行する、その「プロセス」を重視するプログラムです。

主役は「あなた自身」です。この授業の中では、いつも主語を「私」にして、「私は〇〇と思う」「私は〇〇だ」と考えます。

教員はあなたの学習効果を最大限にすることをめざすファシリテーターの役割をとりまします。教員自身もあなたと一緒に学習し成長しようとしています。ここでは、役職や経歴などにかかわらず、参加メンバーも教員も横の関係、人対人の関係です。

お互いの名前は、役職名や先生などは用いず「〇〇さん」と呼びあってOKです。

<協同>が前提です！

このプログラムでは、参加するメンバー全員が共通の上位目標に向かって、最大の成果を生むために、上下関係ではなく、ともに切磋琢磨すること、つまり「協同 cooperation」することを重視します。あなたや参加メンバーがそれぞれのゴールに少しでも近づくように、お互いにサポーター、パートナーとして関わります。

毎回の議題や進め方は、皆の合議で決めます。あなたには毎回発表する機会があり、またスーパーバイザーになる機会もあります。ファシリテーターは、必要と考えたことについて提案をします。

ここでは、あなたの経験の意味を探求すること、そしてお互いを尊重し学び合うことを重視します。そのためにあなたは、行ったことや気づき、あなたが考えたことを言葉で相手に表現すること、およびお互いの経験を理解し、高めあうことを意識して行います。

<プログラムをととして、みなが大事にするグラウンドルールを決めましょう！>

1.

2.

3.

4.

5.

6.

7.

4. プログラムの流れ

保健師等のコンピテンシーを高める学習成果創出型プログラム

フェーズ	日程	目標	内 容	ワークシート
準備	事前準備	学習課題探索に向けた準備性を高める 現場や自分の現状に着目する	●キャリアの振り返り：もっと「プロフェッショナルの仕事を見せる」ための準備 ●自分自身の振り返り：もっと「プロフェッショナルになる」ための準備	シート 2 シート 3
願い・目標	第1回 グループ・セッション (/)	授業の流れを確認・合意し、学習動機を高める 現場や自分の現状に基づいて学習課題を探る 学習課題の解決に向けた願いと目標を探る	○全体のオリエンテーション ○自己紹介とグラドルールの設定 ○ポートフォリオとリフレクティブ・プラクティスについて（講義） ○学習課題（解決すべき現場の課題と、そのために学習を要する自己の課題）およびその解決に向けた願いと目標について意見交換	シート 2 シート 3
計画	個別面接	各自の学習課題を明確にする 学習課題の解決に向けた願いと目標を明確にする	◎リフレクション ●願い・目標（学習課題を含む）の明確化と学習計画の立案 （●リフレクションシートの記入）	シート 1 シート 4 シート 7 & 8 （シート 6）
	第2回 グループ・セッション (/)	願い・目標（現場の課題解決、自己の課題解決）を達成するために実現可能な学習計画を立てる	○願い・目標（学習課題を含む）と学習計画の発表、学習過程の報告、意見交換	シート 1（提出） シート 4（提出）
	個別面接	学習計画を展開する 実施評価に基づいて学習計画を修正する	◎リフレクション ●実施評価と学習計画の修正 （●リフレクションシートの記入）	シート 5 シート 7 & 8 （シート 6）
実施・リフレクション	第3回 グループ・セッション (/)	学習過程を振り返る 目標の到達に向けた進捗と今後の方向性を確認する	○リフレクションと学習過程の報告、意見交換	シート 5（提出）
	個別面接	学習計画を展開する 実施評価に基づいて学習計画を修正する 学習成果を意識する	◎リフレクション ●実施評価と学習計画の修正 （●リフレクションシートの記入）	シート 5 シート 7 & 8 （シート 6）
	第4回 グループ・セッション (/)	学習過程と成果を振り返る 目標の到達に向けた進捗と今後の方向性を確認する	○リフレクションと学習過程の報告、意見交換	シート 5（提出）
	個別面接	学習計画を展開する 実施評価に基づいて学習計画を修正する 学習成果を確認する	◎リフレクション ●実施評価と学習計画の修正 ●プレゼンテーションの準備（提案書の作成） （●リフレクションシートの記入）	シート 5 シート 7 & 8 （シート 6）
統合と再構築・発表	第5回 グループ・セッション (/)	学習過程と学習成果を他者に伝える（現場の課題解決、自己の課題解決の到達度） 社会貢献に向けた提案を行う	○学習成果と社会貢献に向けた提案書（もっと「プロフェッショナルの仕事を見せる」「プロフェッショナルになる」ためには）のプレゼンテーション ○相互の成長確認	社会貢献に向けた提案書 シート 10
成長と継続の確認	終了後	自分自身の成長を確認する 今後も取る組む学習課題を確認する	●自分の成長確認 ●継続する学習課題の確認	シート 7 シート 8 ※ シート 9 ※ ※は平成 年 月 日 () 時までに 提出すること。

時間は全て：～：まで(3時間)

○：グループで実施
◎：学習支援者と実施
●：個人で実施
その他：必要時に知識と技術の提供

ポートフォリオには経時的にワークシートと学習した足跡を綴じていく

5. ポートフォリオ活用の手引き

(1) ポートフォリオ (portfolio) とは

元来“紙ばさみ”を意味し、建築家やジャーナリストなどが、これまでの仕事をファイルした「作品歴」「活動歴」を指し、文字や写真のデータ一枚一枚の情報をバラバラにならないように1つにするもので、情報を一元化し俯瞰できるという特徴があります(鈴木、2000)。教育においては、学習者中心の教育の考え方に立脚したアプローチとして英国で発達した評価方法です。

英国におけるポートフォリオ活用の経緯を辿ると、1980年代に政府が従来の画一的・相対的な評価法に対し、一人ひとりの成長を重視するねらいで義務教育に導入した評価方法の一つです。“records of achievement” “profiles”と同義に解釈される場合もあります。英国には、義務教育の段階から自己成長記録であるポートフォリオを始めることが大学、社会へと個人の成長を図るのに最も有効であること、そして、それが社会に最も有効に貢献できる方法であるという教育方針の枠組みがあります(大関、2000)。

このことが、看護教育におけるポートフォリオ活用の前提ともなっています。英国では1995年から3年ごとの免許更新に“Personal Professional Profiles”としてポートフォリオを導入しています。

(2) ポートフォリオ活用の意義

1. コンピテンシーの質評価に役立つ(自己評価、ピア評価、他者評価)
2. 自分らしさ(能力・人間性)
3. 成果創出と成長の過程を一元的に可視化できる
4. 敷衍したものを、俯瞰し、分析・評価・統合することにより学びを体系化できる
5. 学びを活かす方向性を明確にし、今後に向けた動機を高めることができる

(3) ポートフォリオの活用

ポートフォリオは過去の成長記録であり、将来の成長のプランを提供する手段でもあります。また、ポートフォリオの準備作業自体が、強みを向上させ、弱みを批判的に評価できる専門職としての発達を査定すること、気づきを促すこと、個人の成長を促すこと、独立した学習の動機を刺激します。

日本においては、初等・中等教育においては、総合的学習の時間等にポートフォリオの導入が始まっています(安藤 2002、西岡 2003)。専門職のキャリア開発においては、聖マリアンナ医科大学での医師の卒後臨床研修(鈴木、2006)や島根県立中央病院看護局での目標管理面接と連動したプログラムの構築(曾田ら、2005)など、先駆的实践が報告されています。

(4) プログラムにおけるポートフォリオの活用

ポートフォリオは、単に記録を綴じておくファイルではなく、集めた資料や、その日の成果を入れて毎日の「仕事」や「研究」に活かされるものです。学習のプロセスで生み出される、観察データや現地で取ってきた写真、インターネットで調べた情報や取材やインタビューメモ、話し合いの結果や自分の考察などを時系列にファイル化していきます。

- 1) A4判のクリアポケットファイルを用意します。
- 2) 授業で使用する各種シートを時系列で入れていきます。

ワークシート1（宣言シート）はポートフォリオの最初のページに入れます。

☆ポートフォリオに入れるものの例

- ・各種シート
- ・体験したことや成果
- ・自分にとって価値ある資料やデータ
- ・対話録
- ・業務改善のアイデアや提案
- ・役に立つと感じたメモ
- ・自己研鑽歴・・・etc.

※ポートフォリオへ入れるものには必ず日付をつける。

※手に入れた情報や資料には出典も添えておく。

- 3) 最後にポートフォリオを再構築し、提案書を作成します。

「再構築」とは、一人ひとりがこれまでやってきたことを振り返り、ポートフォリオに入った情報やデータ、アイデアなど鳥瞰し、その中から自分独自の視点でテーマや裏付けとなる論拠を見だし、組み立て、凝縮する知的な活動をいいます。

〈本プログラムにおける再構築の手順〉

- ①ポートフォリオ全体を確認し、それまでの学びを分析、評価する。
- ②学びを統合し、誰に何を提案するか（どんな貢献につなげるか）を考える。
- ③提案書をまとめる。

参考文献

- 田中美延里他：ポートフォリオ、科学研究費補助金「保健所保健師の専門的・総合的調整機能を強化する教育プログラムと教材の開発」報告書、主任研究者岡本玲子、平成 20 年 3 月
- 大関信子：看護教育にポートフォリオの導入を, *Quality Nursing* ,6(3):52-53, 2000.
- アラン・ノールズ：Records of Achievement in English Schools, *Quality Nursing* ,6(3):57-59, 2000.
- 鈴木敏恵：ポートフォリオで評価革命!—その作り方・最新事例・授業案, 学事出版, 2000.
- 安藤輝次:評価規準と評価基準表を使った授業実践の方法—ポートフォリオを活用した教科学習、総合学習、教師教育, 黎明書房, 2002.
- 西岡加名恵：教科と総合に活かすポートフォリオ評価法—新たな評価基準の創出に向けて, 図書文化社, 2003.
- 鈴木敏恵：ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略—, 医学書院, 2006.
- 曾田美佐子, 藤原ヒロコ, 狩野京子他: 人的資源マネジメントの新たな視点, 実践例 ポートフォリオによる目標管理研修 コンピテンシー手法&対話コーチング, 看護展望, 30(2):277-282, 2005.

3) ワークシートの使い方

(1) ワークシート全体について

- ・記入は手書き、パソコンでの入力 of どちらでもかまいません。
- ・各シートの枚数は、記入内容によって増えてもかまいません。

(2) 各ワークシートについて

①ワークシート1：宣言シート

- ・このワークシートは第1回グループ・セッション¹で使います。
- ・私の願いには、自分のやりたいこと、変えたいことを「～したい!」という表現で書いてみましょう。
- ・私の目標には、プログラム終了までに達成することを「願いを叶えるために～する!」という表現で書いてみましょう。
- ・理由には、現状の課題や問題点、私の願いがどんな理由で生じているのかについて書いてみましょう。

②ワークシート2：私の仕事について

- ・このワークシートはプログラム開始前に記入し、第1回グループ・セッションに持ってきます。
- ・これまでの自分の仕事歴を振り返り、転職や異動を通して自分に求められた力、獲得した力を確認してみましょう。また、プライベートで起こったイベント結婚、出産、育児、進学など）とも合わせて、自分のこれまでの保健師としての成長を見直してみましょう。
- ・仕事歴の振り返りを通して、今の仕事について自分のやりたいこと、変えたいことを書いてみましょう。

③ワークシート3：私について

- ・ワークシート2と同様に、このワークシートはプログラム開始前に記入し、第1回グループ・セッションに持ってきます。
- ・自己紹介、自分の強みと弱み、自分がなりたい理想の保健師像を書いて見ましょう。

④ワークシート4：学習計画（初回用）

- ・このワークシートは第2回グループ・セッションで使います。

¹ 大学院の科目履修用のワークシートでは、プログラムのことを「科目」、グループ・セッションのことを「授業」と表現しています。

- ・到達目標には、①プログラム終了までの目標と、②次回のグループ・セッションまでの目標を書きましょう。
- ・アクションプランには、次回のグループ・セッションまでの目標を達成するために「私が、誰に対して、何のために、何をする」を具体的に書きましょう。

⑤ワークシート5：実施評価と次の学習計画

- ・このワークシートは第3回グループ・セッションから使います。
- ・今回までの目標には、前回に立てた目標を書きましょう。
- ・実施内容には、前回に立てたアクションプランに基づいて実施した内容を書きましょう。
- ・自己評価には、目標をどの程度達成したかを考察して書きましょう。円の中に自己評価を顔で表してみましょう。(笑い顔、困り顔、泣き顔など)
- ・次回のグループ・セッションまでの目標を書きましょう。
- ・アクションプランには、次回までの目標を達成するために「私が、誰に対して、何のために、何をする」を具体的に書きましょう。

⑥ワークシート6－1：リフレクションシート（私の体験記述）

- ・このワークシートはプログラムの中で随時使います。
- ・自分が体験したことのなかで、印象深かったこと、不思議に感じたこと、疑問に思ったことなど、振り返りたいことをひとつ取り上げ、そのプロセスを具体的に記述しましょう。

ワークシート6－2：リフレクションシート（私への問いかけ）

- ・このワークシートはワークシート6－1に書いた体験について自分に問いかけをして分析するものです。黄色欄の問いかけの中から、自分を振り返るために適切な問いを選び、自分の感じたことや考えたことを書きましょう。

⑦ワークシート7：学び記入シート

- ・このワークシートは毎回のグループ・セッション、面接の後に記入し、終了時に自分の成長を振り返るために使います。
- ・ファシリテーターや参加メンバーの意見を聞いて気付いたこと、参加メンバーの発表を聞いて気付いたこと、今後に活かそうと思ったことなど学んだことを書きましょう。

⑧ワークシート8：成長確認シート（保健専門職としてのコンピテンシー到達度の振り返り）

- ・このワークシートは、プログラムの期間中、随時記入します。
- ・このワークシートは、あなたが自分自身のコンピテンシーについて、自分でまたは他者（学習支援者、参加メンバー、同僚など）と話し合いながら振り返るためのワークシートです。
- ・コンピテンシーとは、単に知識や技術があるということではなく、専門職として卓越した活動成果をあげる源となる「あなた自身の特性意識、姿勢、考え方、行動様式」のことをいいます。
- ・縦軸には、あなたが振り返りを行う 10 ヶのコンピテンシー、横軸には、あなたがどの段階にいるかを考えるための 5 つの状態像を載せています。あなたは、このプログラムの各回で、自分が振り返りたいコンピテンシーについて、該当する空欄にあなたの現在の状態像をありのまま記述していきます。
- ・コンピテンシーの欄は、2 つに大別され（Ⅰ、Ⅱ）、そののち 5 つ（A～E）、10 ヶ（1～10）に分かれています。さらに望ましい状態像とともに示した 24 項目に分かれています。まず、このコンピテンシーの内容を確かめましょう。保健師としての自分の抱えている課題や悩み、もっと成長したポイントはどこにあると感じますか？どの分類の大きさを単位にしてもかまいません。あなたが今回取り上げたいコンピテンシーについて、具体的に現在の状態を考えてみましょう。例えば「1. Health For All」についてまとめて考えてみてもいいですし、「6-15)専門性の確認とアピール、伝承」に的を絞って考えてもかまいません。もし、取り上げたことについて、今まで意識したことがなかったり、真剣に考えたことがなかった場合は、今のところ 0 の段階だと考えてください。
- ・ワークシートの書き方については、グループ・セッションや個別面接で補足説明をします。

⑩ワークシート 9：成長と貢献レポート

- ・このワークシートは科目修了後の決められた日に提出します。
- ・自分が成長したと思うことを、ポートフォリオを俯瞰して 3 つ書きましょう。
- ・自分が貢献したと思うことを、ポートフォリオを俯瞰していくつでも書きましょう。
- ・提案書にまとめたことを、今後どう活かしていくかを書いてみましょう。
- ・科目終了後の学習課題についてどうしていくか具体的に書いてみましょう。

⑪ワークシート 10：参加メンバーへのメッセージ

- ・このワークシートは第 5 回最終回に書いて持ってきます。
- ・参加者メンバー同士での相互評価として、このプログラム全体で各メンバーが成長したと思うことや、伝えたいことを具体的に記入しましょう。

○記載例：シート1 宣言シート

宣言シート

私の目標
（「願いを叶えるために～する！」
で表現しましょう）

**楽しく安心して子育てが
できる地域づくりに貢献
するために、育児中の
母親の話をじっくり聞くこ
とから始める！**

人々の健康と
Well-being
の向上を
めざして！

私の願い
（「～したい！」で表現しましょう）

**乳幼児を持つ母
親の育児不安や
悩みを理解し、共
感できる保健師に
なりたい！**

理由

母子の訪問が苦手。訪問に行っても、
つい、自分が聞きたいことの情報収集を
優先し、母親の訴えをじっくり聞く姿勢に
なっていないと感じている。
母親との信頼関係を築き、困ったときには
いつでも相談してもらえる関係づくりが大切
である。

出典：「2006鈴木敏恵 未来教育プロジェクト」を改変

【提案書の作成について】

○第5回目の授業でプレゼンテーションを行う『提案書』はA3 1枚（片面）以内にまとめましょう。

○『提案書』には、少なくとも以下の内容を含めましょう。

- ・ テーマ（自由に設定しましょう!）
- ・ 具体的な提案
- ・ その提案が必要な背景や根拠
- ・ 提案の意義（どのような貢献につながるか）

○プレゼンテーションに際しては、パワーポイントの使用も可能です。ただし、『提案書』を配付資料で作成する場合は、1ページにスライド6枚とし、2ページ以内にまとめてください。

〈例〉

提案書		テーマ:	氏名()
(提案)	(意義・貢献)		
(背景・根拠)		(今後の方向性)	

〈例〉

※各自でレイアウトを工夫しましょう。

※適宜、図表や写真等ビジュアルなものを利用しましょう。

『提案書』作成のポイント

- ・ 全体を一目見て言いたいことがわかること。
- ・ 根拠ある情報が適切に使われていること。
- ・ 全体に展開性があること。
- ・ 第三者がみてわかりやすいこと。
- ・ 具体的な提案であること。
- ・ 世の中の役に立つものになっていること。
- ・ 単なる調べたことのまとめではなく、自分の考え（考察・見解）が入っていること。

6. リフレクティブプラクティス（省察的实践）の手引き

1) リフレクションとは？

それは実践者が、リフレクティブスパイラルの中で、望まれる効果的な実践について悟っていく自己の探求過程です。特に不確定であって容易に答えが出せない状況にあるような場合、発展的な過程として計り知れない価値をもつものであり、常にリフレクションを行い、何かを生み出します。(Schon, 1987)

2) リフレクティブプラクティス

学習者は、リフレクティブプラクティスに従事することによって、彼ら自身が目をつけている能力を発展させ、彼らの考え、行動するすべてについてのクリティカルな意見交換を彼ら自身でできるようになります。それは学習者が、彼女/彼の考えや行動から直接情報を得るリフレクティブな過程です。(Barnett, 1992)

3) なぜ実践しながらリフレクションを行うのでしょうか？

経験のあるリフレクティブな実践者は、最も日常的な仕事の状況を自分で省察することができます。なぜなら、当然のこととして何もおろそかにしていない場合も、いつも開かれた不思議な気持ちで注意深く見るからです。それは展開している瞬間と、その後に起こること相方に注目する 1 つの方法です。また、ただ認知の過程だけでなく自分自身を知るすべてのセンスを引き出すホリスティックな過程でもあります。(Johns, 2002 pp 9)

4) 理論的知識と実践

- 理論的知識は抽象的で一般化されたものです。
- 広範囲な知識だけでは良質な実践を生み出せません。
- これは、実践において毎日出くわす問題について不十分にしか扱われていないことを指摘しています。
- 良質な実践 = 実践者が目の前の特定の事例に対して、思慮深く適切な理論的展望を選択していること。
- これが精選と却下の過程を導きます。 = リフレクティブな実践

(Schon, 1983; Reed & Procter, 1993)

図 Gibbsのリフレクティブ・サイクル

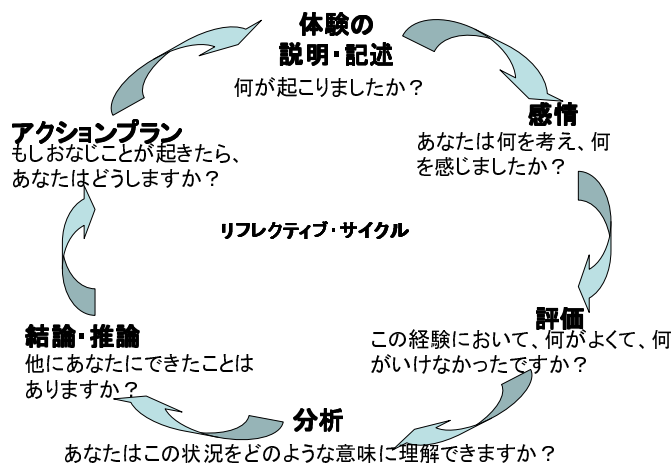
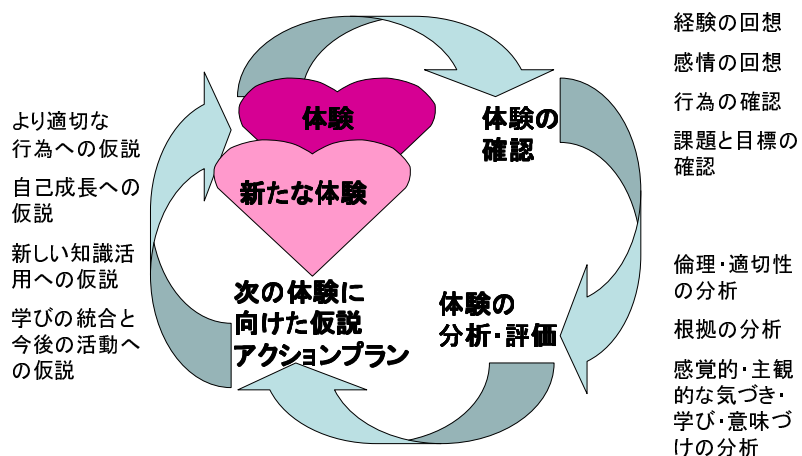


図 Kolbの体験学習におけるリフレクションのステップ



5) リフレクティブダイアリー

毎日の個人の経験や観察したこと、つまり考えや受けとめたこと、思い、感情といったことを表現して日記に記録することです。(Holly, 1989)

なぜ日記をつけるのでしょうか？

- ・経験についてのリフレクションを記録するため。
- ・考えなどを紙に書く前に頭の中で言葉や文を組み立てる過程は、考えや想起を構築することを可能にするから。
- ・経験の記録をほどよく正確に蓄えられるから。
- ・記憶を呼び起こすことに苦心するのを避けるため。
- ・特定の経験に焦点を当てやすくなるから。
- ・リフレクションによる概念構築の基礎ができるから。

アクションリサーチにおけるリフレクションのガイド

過程	リフレクションの手順★と問いかけの例	備考
体験の記述	★体験したことを書きましょう あなたが今日（あるいは○月○日～○月○日の間に）体験したことのなかで、印象深かったこと、不思議に感じたこと、疑問に思ったことなど、振り返りたいことをひとつ取り上げ、そのプロセスを具体的に記述しましょう。	体験とは身をもって経験したことのことをいいます。
リフレクション	★体験したことを振り返りましょう あなたが取り上げたことについて、つぎの問いを投げかけ、感じたことや考えたことを、ありのまま表現して自由に書きましょう。	
1 体験の確認	1) 私はその体験をどのように感じていたのか 2) 私は何をどのように変えようとしているのか 3) 私はそのために何を行ったのか、いつ・どこで・誰に・何を・どのように行ったのか	経験の回想、感情の確認 経験の回想、課題と目標の確認 経験の回想、行為の確認
2 体験の分析・評価	4) 私は状況に応じてふさわしい動きをしていたのか 5) 私はその状況でどんな考えや判断のもとに動いていたのか 6) 私はその結果、誰にどのような影響を与えた（誰の何を改善した）のか 7) 私にとってこの体験はどんなところが良かった（良くなかった）のか 8) 私は何を学んだのか、私が新しく得られたことは何か	経験の回想、倫理・適切性の確認・分析 経験の回想、根拠の確認・分析 結果の分析・評価 感覚的・主観的な気づき・意味づけの分析・評価 感覚的・主観的学びの分析・評価
3 次の体験に向けた仮説化	9) 私はその状況で他にもっとできたことがあったか 10) 私はこれから自分の何をより伸ばし改善していくのか 11) 私は学んだこと、新しく得たことをこれからどう用いるのか 12) 私はこれから実際に何をめざして何を行っていくのか	より適切な行為に関する仮説 自己成長に向けた仮説 新しい知識の活用に向けた仮説 学びの統合と今後の活動に関する仮説
計画	★新しい次の体験に向けてプランをたてましょう 具体的なアクションプランが浮かんだら、それを記述しましょう。	

出典：岡本玲子，IV 主な質的研究と研究手法 6) アクションリサーチ（グレッグ美鈴他編，よくわか質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートをめざして）医歯薬出版株式会社，2007

Kolb らの体験学習のステップを概念枠組みとし、Gibbs と Johns、Stephenson らのリフレクションの構成要素を基にして、日本でアクションリサーチを展開する際に、研究者や研究参加者が用いることができる問いかけを岡本が考案したもの

6) リフレクティブな実践に欠かせない基本的スキル

- 自己への気づき self awareness
 - 表現 description
 - 批判的分析 critical analysis
 - 総合 synthesis
 - 評価 evaluation
- Atkins & Murphy, 1993

→これらのスキルは、実践をとおして徐々に時間をかけて開発、育成されます。

(1) 自己への気づき self awareness ←すべての段階の土台

- 信念、価値観、素養、強みや弱みを含む自分の性格を意識すること、自分を知ること。
- そして、それがどのように他の人に影響しているかを認識すること。
- リフレクションの必須要素である「自分自身の感情の分析」を可能にする。
- 自身の学習ニーズを明確にし、それに応えていく責任を持てるようになるために必要。
- 仕事への主体性、企画性、実行性、コミュニケーション力において自立性を養うために必要。

(2) 表現 description

- それが人物、物、ある状況、抽象概念、考え方のいずれでも、その特徴や外見に判断を加えないでそのとおりに述べること。
- 通常、語り、文書。絵や彫刻という場合も。
- よい記述は、その状況について明確かつ正確で、全体像が描かれている。
- 記述の鍵となる要素：その context の重要な背景となる要素、はっきりしていない出来事、感じたり考えていたこと、その状況の結果など。
- 他者もイメージできる＋豊富な語彙力＋わかりやすい言葉＋重要な事柄の関係性がわかる組み立てが必要。

(3) 批判的分析 critical analysis

- 「分析」とは、全体を要素ごとに分け、それぞれの本質や相互の関連・影響を理解するために検討すること。
- 「批判的」とは、分析の方向性を示す用語。
- それぞれの、あるいは全体の強み（利点）、弱み（欠点）の両方を判断しその後に活かす、肯定的で建設的な過程。

批判的分析 critical analysis に含まれること

- 知識の存在を明らかにする
Carper(1978) 看護の知の構造を分析 4つの基本的な知のパターン

経験知(empirical)、審美知(aesthetic)、個人知(personal)、倫理知(ethical)

- その状況に関連した感情を探る
客観的な活動とのバランスを適切に保つ。
- 課題を明確にして取り組む
例えば、文化的・慣習的背景に起因して、根拠もなくおこなっていること（→停滞）に疑問を持つ。
- 行動の選択肢を推測し、探求する
常によりよい新しいやり方や考え方を模索すること。 → 創造性、成長

（４）総合 synthesis

- 「分析」の反対
- 分離された要素、とりわけ概念を関連したひとまとまりの全体として組み立てていく過程、もしくはその結果（オックスフォード辞典）。
- リフレクティブな実践における総合：新しい知識や感情、態度と、それまでの知識や感情、態度をまとめる能力。
- リフレクションから満足のいく結果を得るために必要。
（問題の明確化、態度の変容、ものの考え方の進展、問題の解決、行動の変容や結論の変更などを生む）

（５）評価 evaluation

- 何かの価値を判断する能力、振り返りを伴う。
- 高度なスキル。
- 人は評価というと不快感を示す←試験や人事考課等に関連するから。
- リフレクティブな実践：自分自身を検討する個人的な過程。
- 自分をひどく苦しめるためのものではない。
- 自分に必要な変化を生み出すために、自分が言っていることと、行っていることの食い違いをみつけることを含む。

7) リフレクションの評価

- 経験に対する新しい見方
 - 行動の変容
 - 適用への準備
 - 行動への参加
- Boud ら(1985)
-
- 知識の開発
 - スキルの開発
 - 態度の育成もしくは変化
 - 新しい知識の共有もしくは教育活動への参加
 - 臨床を発展させることへの率先した参加
- オックスフォード・ブルックス大学

7. 学習の手引き（今特に強化が必要な保健師のコンピテンシーに焦点をあてて）

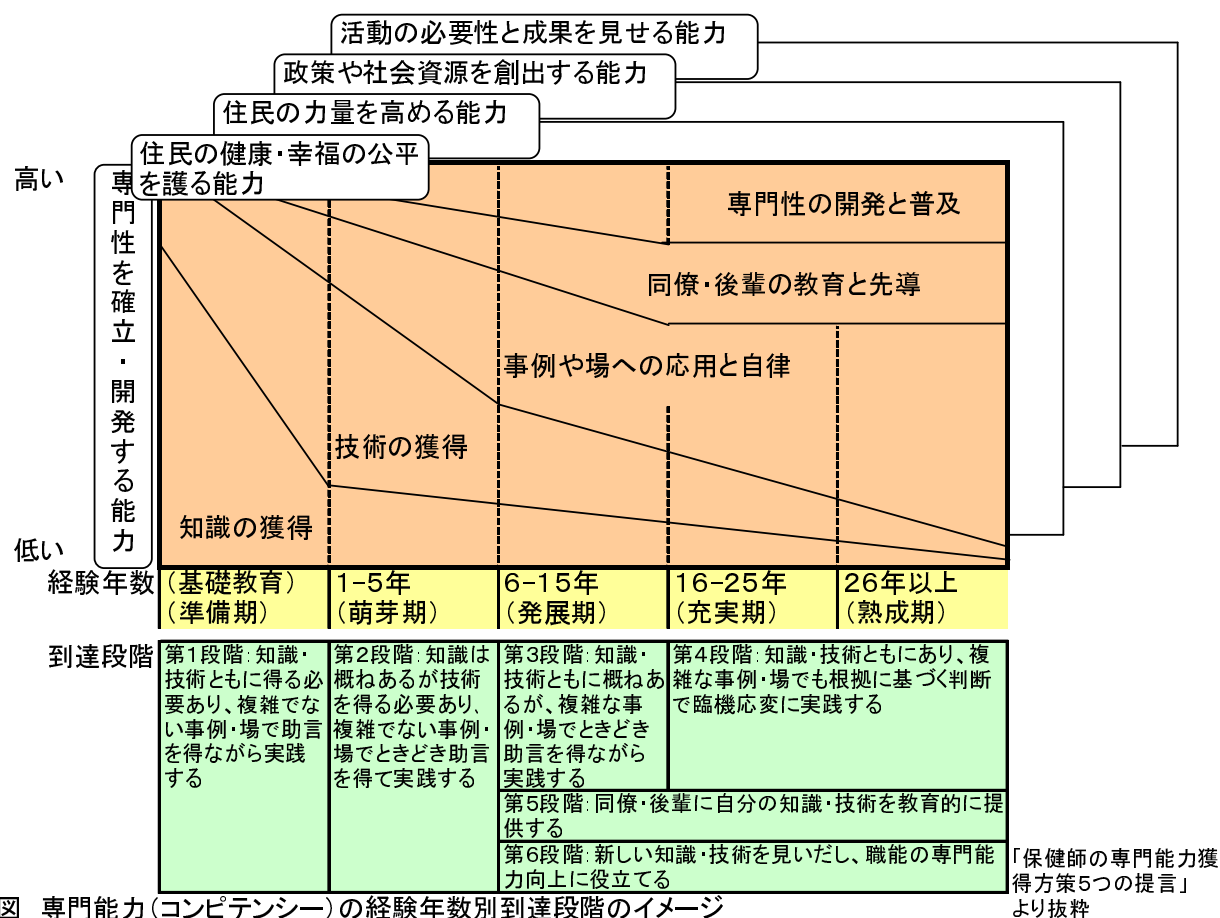
はじめに

先行研究では、今特に強化が必要な保健師のコンピテンシーは5つに大別されました。

- 1) 住民の健康・幸福の公平を護る能力
- 2) 政策や社会資源を創出する能力
- 3) 住民の力量を高める能力
- 4) 活動の必要性と成果を見せる能力
- 5) 専門性を確立・開発する能力

またその発展段階についても、知識・技術の獲得から、その応用と自律、教育機能、研究開発機能への発展という軸で明示されました。

あなたが取り組むプロジェクトには、どんな能力が必要でしょうか。今回の授業期間中は、何に焦点をあてて取り組みますか？ここでは、あなたが高めたいコンピテンシーを高めるためのポイントをご提供します。



1) 住民の健康・幸福の公平を護る能力

はじめに

このコンピテンシーは、保健師が憲法 25 条に保証されるべきすべての住民の生存権を護るために、保健師が公衆衛生従事者として活動をする上で基礎となる能力です。

このコンピテンシーには、住民のサービスへのアクセスと健康の公平性を追求すること、地域全体のサービスの質を監視すること、健康危機の管理を行うことが含まれています。

学習目標

- ①公共性・公衆衛生とは何かについて理解する
- ②サービスへのアクセスや健康の公平性が保証されていない状況について理解する
- ③サービスへのアクセスや健康の公平性が保証されていない状況の解決方法について考えることができる
- ④地域のニーズに適した保健サービスの質（対象者の選定、サービス内容、広報等）や量のバランスを見極めることができる
- ⑤健康危機とは何かを理解できる
- ⑥様々な健康危機への対応方法について理解できる
- ⑦健康危機への各フェーズに対する対応方法について理解できる

学習の進め方

<学習目標①から④>

- ①『無名の語り』の“「裏社会の女」の生き様に添う”を読み、このケースに保健師が関わっていかなければ、どのような点で生存権が侵されているかを考えてみましょう。それをみなと共有しましょう。
- ②このケースへの保健師の関わりで「素晴らしいと思う部分」「もっとこうしたらよいと思う部分」について挙げ、みなとディスカッションしましょう。
- ③最後に、資料「憲法 25 条」、および「公共の役割」や「公衆衛生」資料準備できていない)を読み、そこから、このケースでアクセスと公平性の保証がどのような点でなされているかを考えてみましょう。
- ④あなたの担当地区、担当事業などで、サービスへのアクセスや公平性が保たれていない事例や状況について考えてみましょう。どのような事例や状況がありますか？またどのような対処をしていますか？
- ⑤あなたの地域にどのようなサービスがあれば、上記⑤の事例や状況は解決するか考えてみましょう。

<学習目標⑤から⑦>

- ①「健康危機」の定義について、参考文献等を参考にし調べましょう。
- ②過去の健康危機事例（東海村ウラン加工工場の臨界事件、米国バイオテロ、O157などの感染症、地震・交通災害などの自然・人的災害など）への対応方法について学習し、その時の保健師の対応と、さらにどのような対応が必要であったかをそれぞれ学習者が調べてプレゼンテーションしましょう。
- ③あなたの地域で予測される健康危機（パンデミック、自然災害等）について、予防的対応方法、発生時の対応方法、終息期の対応方法を考え、それぞれグループでディスカッションしましょう。

参考文献

近藤克則、健康格差社会、医学書院、2005

近藤克則、検証「健康格差社会」—介護予防に向けた社会疫学的大規模調査、医学書院、2007

大谷藤朗、現代のスティグマ—ハンセン病・精神病・エイズ・難病の艱難（勁草 医療・福祉シリーズ）、勁草書房、1993

伊藤周平、権利・市場・社会保障 生存権の危機から再構築へ、青木書店、2007

宮本ふみ、無名の語り 保健師が「家族」に出会う 12 の物語、医学書院、2006

石井 昇 他編集、災害・健康危機管理ハンドブック、診断と治療社、2007

岩崎 恵美子監修、佐藤 元 編集、新型インフルエンザ—健康危機管理の理論と実際、東海大学出版会、2008

厚生労働省編、地域健康危機管理ガイドライン、2001

南裕子、山本あい子編、災害看護学習テキスト、日本看護協会出版会、2007

2) 政策や社会資源を創出する能力

はじめに

この能力は、既存の政策や資源、体制では解決できない住民の健康課題を明らかにし、必要なものを創出することであり、潜在する課題を明らかにする専門能力や、企画・実施・評価する行政能力、発想力・行動力などの基本的な能力を、総合的に必要とします。この能力の下位概念は、創出を要する課題の明確化、創出の推進・具現化、そして創出に向けた協同です。

この能力を高めることで、住民や関係者と共により良いものを創り上げていく充実感や達成感を味わってください。

学習目標

- 1)課題の明確化から政策や社会資源を創出するまでの過程と保健師の活動内容を理解し、それを説明することができる。
- 2)自身の担当業務について、現状分析に必要なデータを集める、分析する、課題を明確化することができる。
- 3)課題の優先度を客観的根拠に基づき説明することができる。
- 4)課題解決に必要な政策や社会資源を実現可能な範囲で具体的に発想することができる。
- 5)課題解決に必要な政策や社会資源創出の計画を立て、活動の意義、目標（長期・短期）、期限、予算、マンパワー、評価方法などを盛り込んだ企画書を作成することができる。
- 6)創出に向けて協同すべき対象を明確化し、企画へのコンセンサスを得ることができる。
- 7)計画に沿って、活動を展開、評価し、次期計画に向けた課題を明確化することができる。

学習の進め方

- 1)モデル事例から、活動のコツを学びましょう。モデル事例選定の方法は、創出経験のある保健師を紹介してもらい、ジャーナルや保健師活動を綴った書籍などを活用するなどがあります。必要時、教員と相談してください。事例について、各自やグループミーティングで考察を行い、創出に至るまでの過程や、保健師の活動内容、真似てみたい活動のコツなどについて、書き出してみましょう。
- 2)あなた自身の活動を題材にして、さあ、やってみましょう。小さなこと（例：担当している事業の改善）でも良いので、実際に創出を企画・実施・評価してみることが大切です。
- 3)題材とした事業・施策等には、どの機関・部局・職種が関与し、どの予算枠組みで、どんな形成過程を辿って事業化・施策化されたのかについて、各自調べてみましょう。
- 4)題材とした事業・施策等について現状分析と課題の明確化を行います。スーパーバイズを受けながら、各自が担当業務に関する現状分析を行います。現状分析の結果について、グループミーティングを行い、課題の優先度の妥当性、実現可能な解決策などについて、話し合しましょう。

- 5)明らかになった課題の解決に向け、企画書を作成しましょう。企画書には、活動の意義、目標（長期・短期）、期限、予算、マンパワー、評価方法を明示しましょう。
- 6)創出に向け、協同すべき対象は誰か、協同できる体制をどのようにして作り上げていくかについて、行動計画をたて、協同体制をつくりましょう。適宜スーパーバイズを受けてください。
- 7)計画に沿って、実施してみましょう。2週間に1回はスーパーバイザーによる面接（電話・メールでも可）を受けてください。
- 8)評価計画にそって、計画終了時や実施の節目に評価を行いましょう。評価結果はグループミーティングで発表し、互いにスーパーバイズを受け、次期計画に向けた課題を明確化させましょう。

参考文献

- 金川克子、地区看護診断技法と実際、東京大学出版会、2000
- エリザベス・T.・アンダーソン、ジュディ・マクファーレン編、金川克子、早川和生監訳、コミュニティ・アズ・パートナー 地域看護学の理論と実際 第2版、医学書院、2007
- 水嶋春朔、地域診断のすすめ方―根拠に基づく生活習慣病対策と評価―、医学書院、2006
- 平野かよ子編、地域特性に応じた保健活動―地域診断から活動計画・評価への協働した取り組み―、ライフサイエンスセンター、2004
- レオン・ゴルディス 著、木原正博 他翻訳、疫学―医学的研究と実践のサイエンス―、メディカルサイエンスインターナショナル、2010
- ロバート・A.・スパソフ著、上畑 鉄之丞監訳、根拠に基づく健康政策のすすめ方―政策疫学の理論と実際―、医学書院、2003
- 松本千秋、保健スタッフのためのソーシャル・マーケティングの基礎、医歯薬出版、2004
- 石井敏弘、櫃本真幸編、ケースメソッドで学ぶヘルスプロモーションの政策開発、ライフサイエンスセンター、2003
- 石井敏弘編、地方分権時代の健康政策実践書みんなで楽しくできるヘルスプロモーション、ライフサイエンスセンター、2001
- 藤内修二、岩室紳也、新版保健計画策定マニュアルヘルスプロモーションの実践のために、ライフサイエンスセンター、2001
- ピーター・H.・ロッシ他著、大島 巖 他翻訳、プログラム評価の理論と方法―システムティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド、日本評論社、2005
- 伊多波 良雄、公共政策のための政策評価手法、中央経済社、2009
- バーバラ・ウォルトン・スプラッドレイ編集、村嶋 幸代 他翻訳、地域看護活動の方法―概念の明確化からアセスメント・施策化へ―、医学書院、1998
- 東京大学医療政策人材養成講座 編集、「医療政策」入門―医療を動かすための 13 講、医学書院、2009
- 平野かよ子、尾崎米厚、事例から学ぶ保健活動の評価、医学書院、2001

3) 住民の力量を高める能力

はじめに

このコンピテンシーは、保健師活動の特徴ともいえる能力で、住民とともに活動を展開する過程の中で住民のエンパワメントをもたらす能力です。この中では、住民の力量が高まった状況の具体的な姿を思い描くことができるようになるとともに、活動を具体的に展開する中であなたの住民に向かう姿勢をふりかえりつつ、活動展開方法について整理して行くことを行います。

学習目標

- 1) 住民主体の活動展開の意義について、自らの言葉で語る。
- 2) 個人、グループ、コミュニティのそれぞれのレベルにおいて、エンパワメントされた状態像について言葉にすることができる。（自らが焦点を当てたい段階のみでも可）
- 3) 焦点とするレベルの住民のエンパワメントにおける保健師の支援方法について、自らの経験、教材、授業の参加者らとの討議の中で整理する。
- 4) 2) 3)を通じて、自らの焦点を当てたい活動展開を振り返り、今後の支援計画を立案する。
- 5) 教員や他参加者のクリティークを受けながら、活動の原則に則り、系統的で一貫した実践を行う。

学習の進め方

- 1) まず、具体的にあなたが住民の力量を高めたいと考える活動事例を選択してください。
活動のレベルは問いませんが、個人に焦点を当てる場合は、一事例ではなく、母子なら母子といった、一人のカテゴリとしてまとめることができるような事例を数事例選択してください。
- 2) 選択した事例について、学習の場で教員、他参加者と共有します。そして、あなたが課題と考えていることについて整理して述べてみましょう。
- 3) 住民の力量が高まるとは具体的にどういう状態をいうのか、自分の実践や、書籍や雑誌で読んだ活動事例の内容から整理してみましょう。そしてそれを自分が考えたい事例においてはどうなのかを照らし合わせてみましょう。その具体的な状態像と実際を検討する過程の中で、どの部分が課題であるのか整理しましょう。
それに基づき、対象（者）のゴールを設定しましょう。とりあげた事例にもよりますが、長期的なものだけでなく、段階をイメージしましょう。
- 4) 上記と平行して、住民の力量が高まった際の保健師の働きかけを自分の実践や、書籍や雑誌で読んだ活動事例の内容、参加者との討議の中で整理しましょう。
- 5) 3) 4)を整理して、自分なりの支援計画を立案してみましょう。計画が長期にわたる場合は年間計画も立てましょう。
まず、自分の考えを職場で対象者)に関わっている人に話してみましょう。視点が合意で

きるようにすることも大切です。合意できないまでも、理解してもらうように努めましょう。

その上で、その計画、とくに目標について対象（者）と話し合いの機会を持ちましょう。

対象（者）の反応にもとづき、目標や計画を見直しましょう。このことは一度では終わらないかもしれませんが、それを行うことの意味に立ち戻りながら実践しましょう。

6)実際に活動を展開しながら、定期的に計画と進捗状況を振り返りましょう。また1年修了した時点で、自らの力量についても評価してみましょう。

参考文献

錦戸典子他、グループ支援におけるアセスメントと評価、看護研究 367)、2003

清水準一、山崎喜比古、アメリカ地域保健分野のエンパワーメント理論と実践に込められた意味と期待、日本健康教育学会誌 41):11-18、1997

田口敦子、岡本玲子、ヘルスプロモーションを推進する住民組織への支援過程の特徴、日本地域看護学会誌 62):19-27、2004

中山貴美子、岡本玲子、塩見美抄、コミュニティエンパワメントの構成概念—保健専門職による評価のための「望ましい状態」の項目収集—日本地域看護学会誌 82)、36-42、2006

中山貴美子、岡本玲子、塩見美抄、コミュニティエンパワメントの構成概念—住民による評価のための「望ましい状態」の項目収集—、神戸大学医学部保健学科紀要 21、97-108、2006

CBPR 研究会 著、地域保健に活かす CBPR—コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ、医歯薬出版、2010)

カレン・グランツ 他編集、曾根 智史 他翻訳、健康行動と健康教育—理論、研究、実践、医学書院、2006

今村 晴彦 他著、コミュニティのちから—“遠慮がちな” ソーシャル・キャピタルの発見、慶應義塾大学出版会、2010

安梅 勅江 著、コミュニティ・エンパワメントの技法—当事者主体の新しいシステムづくり、医歯薬出版、2005

安梅 勅江 編集、ヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法〈2〉活用事例編—科学的根拠に基づく質的研究法の展開、医歯薬出版、2003

4) 活動の必要性と成果を見せる能力

はじめに

この能力は、保健師が住民の健康と well-being にむけて実践することの理由と、その効果を表現することです。これは住民や他専門職との協働のための基盤となる能力であると同時に、行政内で保健師の存在する意味を示す能力でもあります。この中では、これらを具体的に行うことのできる実践力を養うことを重視しています。

学習目標

- 1)活動の必要性の根拠となる地域のニーズを明確に提示する。
- 2)活動に関わる過去に蓄積されたエビデンスを収集し、そのレベルの高さについて判断する。
- 3)活動を評価するための方法について知り、状況に応じて選択し、評価の計画を立案する。
- 4)評価を実践する中で、具体的な技術を習得する。
- 5)実施した評価に対し、妥当な解釈を行う。
- 6)活動の必要性や評価を示す対象・状況にあわせて、活動の必要性を表現する方法を選択し、効果的に実践する。

学習の進め方

- 1)学習はあなたの具体的な事例に基づいて行います。あなたが活動の必要性や成果を示したいと考える活動事例を選択してください。
- 2)選択した事例について、学習の場で教員、他参加者と共有します。そして、あなたが課題と考えていることについて整理して述べてみましょう。
- 3)活動ニーズについて以下の観点から整理します。地域の保健統計/当該活動の関連する他の事業の状況/地域の一次資料/専門家の主観的なデータ/住民の声/関係者の声/行政施策の体系や方向性/国の当該領域の動向
- 4)当該活動に関連する文献や統計情報を収集します。それらがどの程度、信頼性がおける情報かどうかを判断しましょう。
- 5) 3) 4)にもとづいて、活動の必要性を文章化しましょう。必要性を簡潔かつ明確に提示することに留意します。また、この際には活動の目的・目標も明確にしておくことも行います。
- 6)評価に関わる基本的な知識を学習しましょう。学習内容は、評価の目的、評価の種類、評価の方法（量的・質的）、評価のデザイン、評価指標の考え方などです。
- 7)事例を評価する計画を立てましょう。また、データ収集した後の分析をシュミレーションしてみましょう。

参考文献

- ペネロープ・ハウ他著、鳩野洋子、曾根智史 翻訳、ヘルスプロモーションの評価 成果につながる 5 つのステップ、医学書院、2003
- ローレンス・W・グリーン他著、神馬征峰 翻訳、実践ヘルスプロモーション—PRECEDE - PROCEED モデルによる企画と評価、医学書院、2005

5) 専門性を確立・開発する能力

はじめに

このコンピテンシーは、専門職としてよりよい活動をするための土台となる能力です。本授業においても、あなたが、まずこのコンピテンシーについてふりかえり、気づきを得ることを非常に重視しています。

学習目標

- 1)保健師としての自信を高め、自分にできる社会貢献を、責任を持って始め、進める。
- 2)専門職として社会的認知を得て、後輩に専門性を伝承する前段階として、保健師の専門性を再確認し、言葉や文字にして他者に伝える。
- 3)リフレクティブ・プラクティスをとおして、自己の学習課題を明確にして、学習計画を立案し、実施、評価する。
- 4)先輩や後輩、同僚、授業の参加者らと気づきを共有し学び合う、あるいはモデルにして学ぶ
- 5)根拠のもとづいて、活動の原則に則り、系統的で一貫した実践を行う（これについては、1)～4)を参照のこと）。

学習の進め方

- 1)本授業であなたが選択する課題に真摯に取り組んでください。
- 2)あなたがやろうと決めたことを完結する経験や、他者から肯定的（あるいは批判的）評価を受けることが、自信や方向性の明確化につながります。そのような機会を持ち、大事にしましょう。
- 3)既存の専門能力の枠組みに、自分の実践や、書籍や雑誌で読んだ活動事例の内容を照らし、「これはこの分類にはいる活動であり、こんな意義がある」などの意味づけを行うことが、専門性の言語化につながります。まず身近な内容からやってみましょう。
- 4)トレーニングだと思い、リフレクティブ・プラクティスを少なくとも2年間、意識的に続けてみましょう。あなたの「気づき」や「批判的分析」「統合化」の能力が飛躍的に伸び、あなたのまわりの人が目を見張るでしょう。
- 5)必ず、あなたに生じた変化、あなたが起こした変化を確認し記述しましょう。

参考文献

教科書：標準保健師講座シリーズ、医学書院

最新保健学講座シリーズ、メヂカルフレンド社

保健師業務要覧、看護協会出版会

宮本ふみ、無名の語り 保健師が「家族」に出会う 12 の物語、医学書院、2006

バートン ルーチェ 著、山本 俊一 翻訳、推理する医学〈1〉と〈2〉、西村書店、新装版 1995

サラ バーンズ 他編、田村 由美 他翻訳、看護における反省的実践看護における反省的実践
—専門的プラクティショナーの成長、ゆみる出版、2005

表 保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度

【用語の説明】

- 個人/家族： 個人や家族を対象とした卒業時の到達度
 集団/地域： 集団(自治会の住民、要介護高齢者集団、管理職集団、小学校のクラス等)や地域(自治体、事業所、学校等)の人々を対象とした卒業時の到達度

- 卒業時の到達度レベル：
 I： 少しの助言で自立して実施できる
 II： 指導のもとで実施できる(指導保健師や教員の指導のもとで実施できる)
 III： 学内演習で実施できる(事例等を用いて模擬的に計画を立てたり実施できる)
 IV： 知識としてわかる

※到達度とは国家試験受験前に到達すべきレベルを表している

実践能力	卒業時の到達目標			到達度	
	大項目	中項目	小項目	個人/家族	集団/地域
I. 地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力	1. 地域の健康課題の明らかにし、解決・改善策を計画・立案する	A. 地域の人々の生活と健康を多角的・継続的にアセスメントする	1 身体的・精神的・社会文化的側面から客観的・主観的情報を収集し、アセスメントする	I	I
			2 社会資源について情報収集し、アセスメントする	I	I
			3 自然及び生活環境(気候・公害等)について情報を収集し、アセスメントする	I	I
			4 対象者及び対象者の属する集団を全体として捉え、アセスメントする	I	I
			5 健康問題を持つ当事者の視点を踏まえてアセスメントする	I	I
			6 系統的・経時的に情報を収集し、継続してアセスメントする	I	I
			7 収集した情報をアセスメントし、地域特性を見出す	I	I
		B. 地域の顕在的、潜在的な健康課題を見出す	8 顕在化している健康課題を明確化する	I	I
			9 健康課題を持ちながらそれを認識していない・表出しない・表出できない人々を見出す	I	II
			10 潜在化している健康課題を見出し、今後起こり得る健康課題を予測する	I	II
			11 地域の人々の持つ力(健康課題に気づき、解決・改善、健康増進する能力)を見出す	I	I
		C. 地域の健康課題に対する支援を計画・立案する	12 健康課題について優先順位を付ける	I	I
			13 健康課題に対する解決・改善に向けた目的・目標を設定する	I	I
			14 地域の人々に適した支援方法を選択する	I	I
			15 目標達成の手段を明確にし、実施計画を立案する	I	I
			16 評価の項目・方法・時期を設定する	I	I
II. 地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力	2. 地域の人々と協働して、健康課題を解決・改善し、健康増進能力を高める	D. 活動を展開する	17 地域の人々の生命・健康、人間としての尊厳と権利を守る	I	I
			18 地域の人々の生活と文化に配慮した活動を行う	I	I
			19 プライバシーに配慮し、個人情報収集・管理を適切に行う	I	I
			20 地域の人々の持つ力を引き出すよう支援する	I	II
			21 地域の人々が意思決定できるよう支援する	II	II
			22 訪問・相談による支援を行う	I	II
			23 健康教育による支援を行う	I	II
			24 地域組織・当事者グループ等を育成する支援を行う		III
			25 活用できる社会資源、協働できる機関・人材について、情報提供をする	I	I
			26 支援目的に応じて社会資源を活用する	II	II
			27 当事者と関係職種・機関でチームを組織する	II	II
			28 個人/家族支援、組織的アプローチ等を組み合わせて活用する	II	II
			29 法律や条例等を踏まえて活動する	I	I
			30 目的に基づいて活動を記録する	I	I
		E. 地域の人々・関係者・機関と協働する	31 協働するためのコミュニケーションをとりながら信頼関係を築く	I	II
			32 必要な情報と活動目的を共有する	I	II
			33 互いの役割を認め合い、ともに活動する	II	II
		F. 活動を評価・フォローアップする	34 活動の評価を行う	I	I
			35 評価結果を活動にフィードバックする	I	I
			36 継続した活動が必要な対象を判断する	I	I
			37 必要な対象に継続した活動を行う	II	II

実践能力	卒業時の到達目標				到達度	
	大項目	中項目	小項目		個人/家族	集団/地域
Ⅲ. 地域の健康危機 管理能力	3. 地域の健康危機管理 を行う	G. 健康危機管理の 体制を整え予防 策を講じる	38	健康危機（感染症・虐待・DV・自殺・災害等）への予防策を講じる	Ⅱ	Ⅲ
			39	生活環境の整備・改善について提案する	Ⅲ	Ⅲ
			40	広域的な健康危機（災害・感染症等）管理体制を整える	Ⅲ	Ⅲ
			41	健康危機についての予防教育活動を行う	Ⅱ	Ⅱ
		H. 健康危機の発生 時に対応する	42	健康危機（感染症・虐待・DV・自殺・災害等）に迅速に対応する	Ⅲ	Ⅲ
			43	健康危機情報を迅速に把握する体制を整える	Ⅳ	Ⅳ
			44	関係者・機関との連絡調整を行い、役割を明確化する	Ⅲ	Ⅲ
			45	医療情報システムを効果的に活用する	Ⅳ	Ⅳ
			46	健康危機の原因究明を行い、解決・改善策を講じる	Ⅳ	Ⅳ
			47	健康被害の拡大を防止する	Ⅳ	Ⅳ
		I. 健康危機発生後 からの回復期に 対応する	48	健康回復に向けた支援（PTSD対応・生活環境の復興等）を行う	Ⅳ	Ⅳ
			49	健康危機への対応と管理体制を評価し、再構築する	Ⅳ	Ⅳ
Ⅳ. 地域の健康水 準を高める社 会資源開発・ システム化・ 施策化する能 力	4. 地域の人々の健康 を保障するた めに、生活と健康に 関する社会資源の 公平な利用と分配 を促進する	J. 社会資源を開発 する	50	活用できる社会資源と利用上の問題を見出す	Ⅰ	
			51	地域の人々が組織や社会の変革に主体的に参画できるよう機会と場、方法を提供する	Ⅲ	
			52	地域の人々や関係する部署・機関の間にネットワークを構築する	Ⅲ	
			53	必要な地域組織やサービスを資源として開発する	Ⅲ	
		K. システム化する	54	健康課題の解決のためにシステム化の必要性をアセスメントする	Ⅰ	
			55	関係機関や地域の人々との協働によるシステム化の方法を見出す	Ⅲ	
			56	仕組みが包括的に機能しているか評価する	Ⅲ	
		L. 施策化する	57	組織（行政・企業・学校等）の基本方針・基本計画との整合性を図りながら施策を立案する	Ⅲ	
			58	施策の根拠となる法や条例等を理解する	Ⅲ	
			59	施策化に必要な情報を収集する	Ⅰ	
			60	施策化が必要である根拠について資料化する	Ⅰ	
			61	施策化の必要性を地域の人々や関係する部署・機関に根拠に基づいて説明する	Ⅲ	
			62	施策化のために、関係する部署・機関と協議・交渉する	Ⅲ	
			63	地域の人々の特性・ニーズに基づく施策を立案する	Ⅲ	
		M. 社会資源を管 理・活用する	64	予算の仕組みを理解し、根拠に基づき予算案を作成する	Ⅲ	
			65	施策の実施に向けて関係する部署・機関と協働し、活動内容と人材の調整（配置・確保等）を行う	Ⅲ	
			66	施策や活動、事業の成果を公表し、説明する	Ⅲ	
			67	保健医療福祉サービスが公平・円滑に提供されるよう継続的に評価・改善する	Ⅲ	
Ⅴ. 専門的自律と 継続的な質の 向上能力	5. 保健・医療・福祉 及び社会に関する 最新の知識・技術 を主体的・継続的 に学び、実践の質 を向上させる	N. 研究の成果を活 用する	68	研究成果を実践に活用し、健康課題の解決・改善の方法を生み出す	Ⅲ	
			69	社会資源と地域の健康課題に応じた保健師活動の研究・開発を行う	Ⅲ	
		O. 継続的に学 ぶ	70	社会情勢・知識・技術を主体的、継続的に学ぶ	Ⅰ	
		P. 保健師とし ての責任を果た す	71	保健師としての責任を果たしていくための自己の課題を見出す	Ⅳ	

ワークシート一覧

シート 1	宣言シート
シート 2	私の仕事について
シート 3	私について
シート 4	学習計画（初回用）
シート 5	実施評価と次の学習計画
シート 6－1	リフレクションシート（私の体験記述）
シート 6－2	リフレクションシート（私への問いかけ）
シート 7	学び記入シート
シート 8	成長確認シート
シート 9	成長と貢献レポート
シート 10	参加メンバーへのメッセージ

Continuing Professional Development

～私の学び 明日への貢献～



平成20年9月30日 発行

平成21年4月改訂、平成21年10月改訂、平成22年10月改訂
〈プログラム開発者一覧〉

平成20・21・22年度科学研究費補助金 基盤研究 (B)

「大学院教育を地域貢献に活かす保健師等のコンピテンシー開発」

研究代表者 岡本玲子 (岡山大学大学院保健学研究科)

分担研究者 谷垣静子 (岡山大学大学院保健学研究科)

鳩野洋子 (九州大学大学院医学研究院)

岩本里織 (神戸市看護大学)

草野恵美子 (千里金蘭大学看護学部)

小出恵子 (岡山大学大学院保健学研究科)

小寺さやか (岡山大学大学院保健学研究科)

研究協力 岡田麻里 (岡山大学大学院保健学研究科)

俵 志江 (岡山大学大学院後期博士課程)

塩見美抄 (兵庫県立大学看護学部)

保健師 CPD 研究会

(無断複写転載を禁ずる)